

* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) *



令和8年第26週 (6月22日～6月28日)

ヘルパンギーナが増加しました

今週は13名の報告があり、先週の1名から増加しました。大分県全体も定点あたり2.78名となり、先週からやや増加しました。ヘルパンギーナは、主に5歳以下の小児で流行する夏かぜの1つです。典型的な症状は、急な発熱、のどの奥に小さな水疱ができる、のどの痛みなどです。高熱とのどの痛みで食欲不振となり、乳幼児では脱水を起こすこともあるため、こまめな水分補給をこころがけましょう。症状がよくなっても、便の中にウイルスが排泄されるため、オムツ交換やトイレの後は石けんでしっかり手洗いをしましょう。

手足口病:引き続き流行発生警報発令中

今週は7名の報告があり、先週からわずかに減少しました。大分県全体では定点あたり10.94名となり、先週の14.39人から減少しています。石けんと流水で手を洗い、タオルを共用しないように気をつけましょう。

夏に流行する感染症について

この時期は、“夏かぜ”といわれる「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」の報告が増加します。「子どもがかかるもの」と思われがちですが、大人もかかります。また、原因となるウイルスの型には多くの種類があるため、1シーズンに何回もかかることもあります。近年では、「RSウイルス感染症」や「新型コロナウイルス感染症」も夏期に増加傾向がみられているため、注意が必要です。

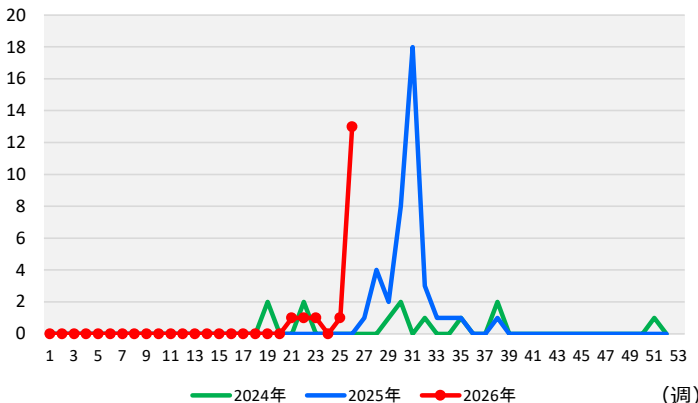
いずれの感染症も、手洗い・咳エチケット・換気などの基本的な感染対策が重要です。アルコールが効きにくいウイルスもいるので、流水と石けんでこまめに手洗いを行いましょう。



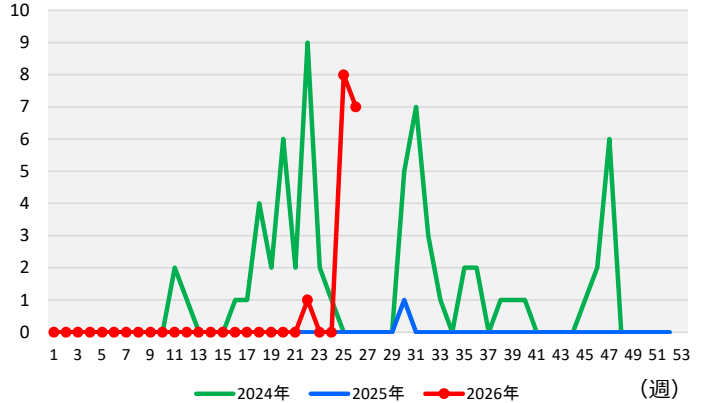
(第26週) (調査医療機関8か所の総患者数)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻しん(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)	
	A型	B型	不明																	
0歳										1			4							
1～3歳										6			8							
4～6歳																				
7～9歳								1					1							
10～14歳								2												
15～19歳								1												
20歳以上				1				1												
今週				1				5		7			13							
70歳以上(再掲)																				
先週										8			1							

(人) ヘルパンギーナ竹田市8医療機関総数



(人) 手足口病竹田市8医療機関総数



感染対策基本のキ

- 1 流水と石けんでの手洗い
- 2 よく触れる物のアルコール消毒
- 3 可能な範囲でのマスク着用

からだに不調を感じたら

医療機関に相談しましょう

感染症の初期は発熱や咳などで発症しますが、延滞で体力や免疫力が低下すると、感染リスクも高まります。「変だな？」と思ったら、医療機関に相談してください。

感染症についての情報はこちら



4 ヘルパンギーナ

(特徴) 発熱と喉の痛みが主な症状の夏かぜの一種です。合併症として、熱性けいれん、特に乳児では脱水症、まれですが小児では髄膜炎や心筋炎などに注意が必要です。発症後4週間後までは、便からウイルスが排泄されるため、おむつ交換後はしっかり手洗いしてください。

(感染経路) 感染経路は、便からの感染を含む接触感染と飛沫感染です。



5 手足口病

5 手足口病

(特徴) 口の中や、手足などに水疱性の発しんが出る感染症です。子どもを中心に感染し、多くが数日間のうちに改善しますが、まれに重症化することがあり注意が必要です。

(感染経路) 飛沫感染、接触感染、糞口感染(便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染)が知られています。

INDOOR

2 新型コロナウイルス感染症

(特徴) 令和5年5月に感染症法上の「5類感染症」に移行されましたが、リスクの高い感染症に変わりはありません。引き続き基本的な感染対策を心がけ、自分や周囲への感染を防ぎましょう。

(感染経路) 患者から排出されるウイルスを含む飛沫、さらに小さな水分を含んだ粒子（エアロゾル）の吸入、感染者の目や鼻、口に直接的に接触することにより感染します。

3 咽頭結膜熱

3 咽頭結膜熱

(特徴) アデノウイルスの感染により、発熱、目の痛み、結膜炎といった症状が数日続く、子どもに多く見られる感染症です。感染者が使ったタオルなどにウイルスを食んだ目やに、唾液、鼻水が付着していることもあるので、タオルの共用は避けましょう。

(感染経路) 主な感染経路は飛沫感染、接触感染です。

1 RSウイルス感染症

(特徴) RSウイルスによる呼吸器感染症です。生後6か月以内の乳児、基礎疾患のある小児や高齢者がかかると重症化する可能性があるため、注意しましょう。

(感染経路) 主に接触感染、飛沫感染によって感染します。

2 新型コロナウイルス感染症

1 RSウイルス感染症



時間史明

健康生活部 感染症対策課 医療体制専門員

「夏かぜは、こもがかかる」と思われがちですが、夏かぜの原因となるウイルスの型には多くの種類があり、1シーズンに何回もかかる人も少なくありません。また、近年夏期に増加傾向がみられている「RSウイルス感染症」や「新型コロナウイルス感染症」もまだまだ注意が必要です。

「咳エチケット」などの基本的な対策が必要。この時期は、夏かぜといわれる「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」などの感染対策も気になるところです。

「夏かぜは、こもがかかる」と思われがちですが、夏かぜの原因となるウイルスの型には多くの種類があり、1シーズンに何回もかかる人も少なくありません。また、近年夏期に増加傾向がみられている「RSウイルス感染症」や「新型コロナウイルス感染症」もまだまだ注意が必要です。

「咳エチケット」などの基本的な対策が必要。この時期は、夏かぜといわれる「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」などの感染対策も気になるところです。